

ひょうごの主な峠

神戸・兵庫の郷土史Web研究館 資料 dt30tog.pdf



神戸

峠の名称	市町	概要
六甲越	東灘区 北区	神戸の六甲山の麓から有馬へ、丹波方面へと最短の道。阪神電鉄の深江駅から北へ甲南女子大学の横を、宮川と中野村谷の中程の尾根を通って、東と西のお多福山の間を風吹岩から雨が峠へ登る。六甲山の最高峰を下り射場山の西から有馬へ入る。六甲越と呼ぶ。青木や深江の漁師や魚屋たちがとれとれの魚を遊興の地有馬へ一刻も早く届けようと開いた道で、“魚屋道（ととやみち）”と人びとは言った。昔は移動の際には指定された「官道」を通る義務があった。有馬へ行くには、西国街道からは生瀬を経て蓬莱峡から、兵庫からは有馬街道、三田からは山口を通る道が本街道だった。指定されていない道は「間道」。六甲越は間道で賑わい、江戸時代に通行禁止になったが、旅人の絶えることはなかった。明治維新で官道が廃止され魚屋道はフリーウェイとなった。 鉄道駅が住吉に造られると、有馬に超すのは駅前から住吉川沿いの住吉道に移った。
杣谷峠	東灘区 北区	六甲登山に最も親しまれたのは、この峠を通る杣谷（そまだに）道がある。明治初めに神戸に来た英国人貿易商のA. H. グループらによって六甲山開発がなされたが、彼らはこの杣谷道をカゴに乗って登る“カゴ登山”をした。五毛天神の横にカゴ屋の帳場があり、4人がかりで担いだ。外国人たちはこの杣谷をカスケード・バレーといった。灘篠原にある護国神社横から谷に沿って登山道が杣谷道で、その頂上が杣谷峠。峠を下ると摩耶山へのドライブウェイが走る。 幕末期に横浜で起きた「生麦事件」を背景に、兵庫港の開港にあたり外国人とのトラブルを避けるために、神戸の居留地横を通る西国街道とは別に、住吉から北へとって篠原を経てこの杣谷を登り、杣谷から西にとって小部、白川、明石の大蔵谷への迂回路を完成させ、これを「徳川道」とよんだ。
七三峠	中央区 兵庫区	塩が原から、この峠を経て、五宮、祥福寺へと通ずる。塩が原の池から100mほど引き返し、道標を西へ鍋蓋山への道をいく。池から約1時間、クマザサの覆い被さった小道の視界が開けるところが、この七三峠である。
赤松峠	北区 三木市	北区長尾町長尾から、吉川町福吉へ通ずる峠。「有馬郡三国の西にあり。俗伝圓心古戦場に因り。自是播磨国毘沙門堂村へ出る所なり」（摂陽群山）
湯槽谷峠	北区	裏六甲の尾根道コース。湯槽谷峠から右の谷道を取り、湯槽谷を経て、紅葉谷道に合し、有馬へ抜ける。
仏谷峠	北区	湯槽谷峠から、湯槽谷山の頂上への途中で、左へ行く小道のブッシュを通り、高尾山を経て仏谷峠へ出る。

峠の名称	市町	概 要
山伏峠	北区	神鉄六甲登山口駅の南から、石プロで知られる西光寺のそばを抜け、六甲ヶ丘団地を横に見ながら、山伏峠にさしかかる。ここを下がると山田である。この道は、団地の出現でズタズタに切られ、昔をしのぶものは、まるでない。(古々山峠?)
風越峠	北区	「風越峠唐櫃村の西南にあり。この峠有馬郡八田部郡の界にして、兵庫丹生山田等より有馬湯本三田への行路。高峰にして常に風はげしく、雲霧を払う。故に風越と号す。ここ有馬西南の極なり」と『摂津名所図絵町こ出ているが、現在は、その所在すら明らかでない。
志久の峠	東灘区 北区	神戸電鉄の箕谷駅を出発点として、農村舞台の残る下谷上の集落から山田川沿いに西に進む。人形浄瑠璃の首が残る櫛田家から北西へ。稚子墓山へ向かう出会いのひじ曲りから指導標に従い北進する。途中ちいさな梨木峠を越え、皿に山道を登っていくと標高500メートルの志久の峠の頂上にたどり着く。下り、中山の大杣池、右手に赤牛伝説で知られた野瀬の大杣池、そして石峯寺が建っている。
小部峠	兵庫区 北区	神戸・兵庫から有馬へ抜ける有馬街道の峠。祇園神社の西の谷、天王川に沿って登る以前の道は市内で幅2.7m、天王谷では1.8mに過ぎず、それから北はさらに狭く、しかも天王谷川を右に左に何度も飛石伝いに渡るので危険が多く、もちろん車馬の通れる道ではなかった。そのため、途中の所々に地藏が祀られ、峠には室町時代のはじめ応永8年(1401)の宝飯印塔があり、往来の安全を祈っている。
岩谷峠	北区 三木市	北区山田町原野から淡河へ通ずる峠。この地一帯は、「丹生文化」の宝庫であり、無動寺、八幡神社、寿福寺などには、重要文化財の仏像や三重塔があり、古い時代の繁栄をみることができる。文化財めぐりハイキングコースとしても親しまれている。
島原古道越	兵庫区 北区	古道越えは、もと兵庫から島原村の住連坂を経て、島原の谷を東小部(現在の鈴蘭台)へでて、さらに山田の本村への道だが、今は、この道に神戸電鉄が通っている。島原水源池の奥、字清水谷の西の岩に南無阿弥陀仏の大文字が彫られているのが人目をひき、島原谷の妙号岩として知られている。
鶴越	北区 兵庫区・長田区	嘉永3年(1184年)源義経はこの鶴越を通過して一ノ谷の平家の陣を奇襲したという。加東市社町三草から東条、鷲の尾という山村、藍那へ(義経道という)。鶴墓園の中を通過して、別働隊を白川から妙法寺、多井畑、鉄柁ヶ峰から一ノ谷に派遣し、自らは福原の都、大輪田の泊が一望できる鶴越の坂を駆け下り夢野、刈藻川すじを大輪田泊へまっしぐら。神戸電鉄の鶴越駅の西の鶴越墓園の南出口に「鶴越の碑」がたつ。
鹿松峠	長田区 須磨区	多井畑を通過して塩屋へと通じる山道が昔あり、古道越えと呼ばれていた。この古道越えが高取山の北の麓の高台を越えるあたりに、鬱蒼と木の茂った鹿松峠(かのししまつとうげ)というところがあった。その昔、鬼人の出る道として知られていたとか。
白川峠	須磨区	1300年以上前の古代の道「山陽道」も西国街道も、神戸須磨浦付近は、台風のとときか海の荒れるときはしばしば波が道路を洗い、通行不能になった。難を避けて安全な道として、長田から板宿を経て妙法寺谷へと足を運び白川峠を経て大山寺へ、伊川谷を下って明石の西で山陽道に戻るルート。西国街道から離れて板宿の商店街を通り、妙法寺川沿いに谷筋を登る。禅昌寺、明光寺、那須与一を祀る堂、妙法寺から白川峠へ。峠を越すと白川の集落、ここから藍那、小部へと道が通じている。また、白川付近は植物化石の宝庫である。
多井畑峠	須磨区	「矢田部郡多井畑村の西にあり。所伝地名に因れり。自是播州下畑村に入る所なり。」(撰陽群山)須磨から多井畑へ越える峠で、火峠越えともいうが、寿永の合戦(1189年)のとき、ここで合図の狼煙を上げてから、その名ができたという。

峠の名称	市町	概要
乗越峠	垂水区	垂水区多聞町から名谷町中山へ通ずる峠。
木見峠 (こうみ)	西区	西区押部谷町木見から、白川・布施畑へ通ずる峠。神戸市の太陽と緑の道のコースにもなっている。近くに水見仏谷洞窟があり、深山幽谷のたたずまいを見せている。
誰が袖坂	西区	西区伊川谷町前開の太山寺の門前の坂道を、袖坂と呼んでいる。この坂でころんだ犬は、まもなく生命を失うという。それを避けるためには、自分の着物の片袖を着物からちぎって、坂のそばの松の木にかけるところから、その名が生まれた。この坂は、別名、苦集滅道（くがみち）とも呼ばれている。

阪 神

峠の名称	市町	概要
船坂峠	西宮市 北区	有馬温泉から少女歌劇の宝塚に出る道、有馬街道の中ほどにあるのが船坂の集落、この集落から南への道を行くと船坂峠に出る。昔は西宮と丹波、東播磨を結ぶ問道として主に酒米の抜け荷道として利用されたい。船坂から蓬莱峠の七曲りを経て生瀬への道がある。船坂川に沿って下ると鎌倉峠とよぶこの渓谷。大多田川の谷が分かれるところに、大きな自然石「太閤のしるべ岩」、座頭が行き倒れた「座頭谷」がある。
赤坂峠	西宮市	西宮市塩瀬町名塩の東久保の峠。近くに有馬三水の一つ、独鈷水がある。ここの清水は、弘法大師がこの地には良い水が出ないということを知り、持っていた独鈷（どっこ・密教で用いる仏具の一つ）でトントンと大地をついて、水を出したという伝説をもつ湧き水である。
小笠峠	西宮市	蓬莱峠、座頭谷から、櫻が峰のハイキングコースにこの峠がある。棚越から30分で、この小笠峠に着く。怪奇と伝説の谷のコースは、小笠峠から右手に約100m登ると道標があり、まもなく屋根筋にて、櫻が峰（460,6m）に達する。
熊笹峠	西宮市 芦屋市	六甲山頂の石の宝殿から芦屋市奥池への六甲横断ハイキングコースの峠。クマザサの生い茂る道で、峠から奥池まで、クマザサを分けながらのハイキングが楽しめる。
十万辻峠	宝塚市	古代から中世にかけて、源氏や秀吉が十万の軍勢を集結させたと伝わる十万辻峠。武庫川支流の惣川沿いに登り、鳥脇へと下る南北の道路と、中山連山より鞍部、山腹を東西に通って大峰山の北を廻り武田尾に出る道路が交わる峠である。峠から下りて途中に中山寺奥の院に出る。そこから中山寺参道、西に清荒神へと参道に繋がる。
長坂峠	宝塚市 猪名川町	宝塚市芝辻新田から猪名川町銀山へ通ずる峠。
ソエ谷峠	宝塚市	近畿自然歩道コースの峠。銀山から、人造湖を経て、一の瀬林道を通り、このソエ谷峠へでる。五月山連峰が遠く小さく見える。この峠を下がると玉瀬である。
中山峠	川西市	川西市東畦野から平野に通ずる、昔関所があったと伝えられる峠。この峠のため、北部に住む人達は、大変な苦勞をしたそうである。中山峠を南へ下がった位置に「文珠の渡し」があり、降った大雨によって急激に増水することがあり、他に道がないため、一列に繋いだ牛を楯にして渡ったが、川の中程にある浅瀬のほかは、中の倉まで浸ったという。現在では、そのほとんどが、川西ゴルフ場にかわっている。

峠の名称	市町	概要
横山峠	川西市 池田市	川西市東多田から、池田市吉野へ通する道であるが、嘉永5年（1852年）11月、新田村善兵衛と木部村新衛門が発起人となって峠の西にあたる猪名川ぞいの細道を改修した。古くは大坂、池田地方から横山峠を越えて多田院に通じていた唯一の道路であった。
トツケ峠	川西市 宝塚市	川西市満願寺から、多田の若宮や多田神社に通するのがこのトツケ峠である。満願寺領と若宮領の境には、一本松が残っている。現在では、そのほとんどが愛宕原ゴルフ場となっている。
横路峠	川西市 豊能町	川西市高代寺からこの峠を経て、保之谷から保合へでる。近畿自然歩道のコースであり、奥能勢の展望道。横路峠を越えると造成された多田、山下方面が山裾一面に広がって見える。
横山峠	三田市 北区	神戸市と三田市の境の峠。国道176号線の坂を登ると、この横山峠へでる。明治の終わりまで「荷車挽は互に扶けて後押をなす等、交通の不便を感じる所」（有馬郡誌）だったという。県会議員の働きで、左右の峠をそのままに、道幅分だけ直角に5m低くなったという話もあるが、峠の上の古い民家や石ガキが、当時の面影を伝えている。
琴引峠	三田市	平安時代、藤原一族から無理矢理出家させられた花山天王は、国鉄三田駅から北東約5キロの菩提寺にもなった花山院に隠棲。この花山院のふもとに琴引峠がある。書写山圓教寺（姫路）の性空上人から諭され、西国三十三カ所観音霊場の巡礼を始めた。琴引峠を越えて北へると茶畑と花菖蒲の母子から永沢寺へでる。
大坂峠	三田市	三田市木器から、同市波豆川へ通する峠。最近、幽霊話も出て話題になった。波豆川には、関西初のフィールドアスレチックコース「三田アスレチック」がある。
切詰峠	三田市	三田市市之瀬から、同市山田に通する峠。近くに三田スケートリンクがあり、冬季は、阪神間から家族連れや若者が集り、賑わう。
猪ノ倉峠	三田市 宝塚市	三田市木器から宝塚市大原野に通する峠。
小野峠	三田市	三田市小野から同市北浦へ通する峠。
赤坂峠	三田市	三田市小柿から同市乙原に通する峠。
見比峠	三田市	三田市小柿から同市小野に通する峠。
三国峠	三田市 加東市	三田市大川瀬から加東市東条町西戸に通する峠。
美濃坂峠	三田市 丹波篠山市	美濃坂峠は南の三田市側からだと母子の集落を経て三国嶽から多紀の小枕へと出る。国鉄福知山線の篠山口駅から、花菖蒲園の永沢寺を通り母子の集落に至る。
日出坂峠	三田市 丹波篠山市	日出坂峠は、摂津名所図会に記されている三田の北端、丹波篠山市丹南町古市から、三田市藍本へと抜ける丹波・摂津の国境の峠である。標高は307メートルとあまり高くないが、灘五郷で有名な丹波杜氏の“出稼ぎの道”でもある。この日出坂の峠越えて、篠山―古市―日出坂峠―三田―道場を結ぶ大坂街道である。別名“くらがり街道”とも呼ばれた。
青原峠	三田市 丹波篠山市	三田市永沢寺から丹波篠山市後川へ通する峠。「有馬郡母子村にあり。所伝永沢寺、山号に因れり。自是、丹波国小枕村の西に出る所なり。寺記其部あり」（摂陽群山）

峠の名称	市町	概要
西峠	猪名川町 丹波篠山市	丹波篠山市箒坊からこの峠を経て、猪名川町杉生新田に出る。西峠から大野山へはハイキングコースになっており、大野山への取付は、やや難路であるが、大野山の眺望は素晴らしい。大野山からは、坦々とした良道で、北田原以後は近畿自然歩道に通じている。
大部峠	猪名川町	猪名川町内馬場から阿古谷岐路に通ずる峠。近畿自然歩道コースにもなっており、多くのハイカーでにぎわう。
阿古坂峠	猪名川町 能勢町	阪急電鉄宝塚線の川西能勢口から北へ猪名川に沿って登ると猪名川町、役場の所在地が栢梨田（かしゅうだ）の集落で、その隣が紫田（ゆうだ）この町には難読地名が多い。紫田から右に道をとると阿古谷。上阿古谷の集落から大阪府の能勢町へ出る峠が阿古谷峠で、京都亀岡から奥能勢と池田、伊丹の阪神間とを結ぶ昔は重要な道であった。多田源氏の祖廟多田神社、地域全体での多田銀山、木食和尚の東光寺、阪神間の水瓶一庫ダムなどなど。

東播磨

峠の名称	市町	概要
木梨峠 (なしのき)	三木市 北区	神戸市北区淡河（おうご）から湯乃山街道（三木から淡河-五社を経て有馬へ）を西に進むと、長桁橋の北で山道になる。ワラ塚の峠池を横に見ながら坂を登ると木梨峠（なしのきどうげ）である。峠の入口のヤブの中に小さな石仏が往来する人びとの安全を見守っている。木梨峠を越えると、三木市志染町戸田に入る。右手に修験道の寺、大谷山伽耶院がある。伽耶院から三木の中心街で。三木城跡のある上の丸には、悲しい三木城陥落の歴史がある。
笠松峠	三木市 西区	三木市三津田から、神戸市西区押部谷に通ずる峠。
山伏峠	加西市	山伏峠という名は各地にあり、深山幽谷が多いが、ここはほぼ平地近い勾配の峠である。兵庫県フラワーセンターからすぐ北へ、峠には長持形石棺の蓋石に彫られた石仏が3基たっている。石棺は、最も古い形式の舟形縄掛式石棺には地藏尊が、縄掛式石棺には阿弥陀尊が、家形石棺には薬師三尊と揃って珍しい。
梅ノ木峠	加東市 丹波篠山市 三田市	加東市社町の北端にある峠で、標高250m程度のあまり高くない峠である。播磨と丹波・摂津の国境にあるため、三国境ともいわれ、西国25番の札所、御獄山清水寺へ巡拝する遍路道として昔は往来が盛んであった。現在では、別のルートに道路が整備され、この峠を利用する人は、ほとんどなく沿道の道標や屋敷跡により、当時の様子を偲ぶばかりである。
シラ坂峠	加東市 西脇市	西国二十五番の札所播州清水寺は昔も今も変らぬ信仰を集めている。この播州清水寺への道は四方八方からここに通じている。その道の一つ奥丹波、丹波からの清水詣での道がJR加古川線比延駅から東へとり塚口の集落から新池を経て加東市社町上鴨川の集落に出る道である。この道の西脇市と加東市社町の境にあるのがシラ坂峠である。上鴨川から清水寺への道は、下鴨川を経て三田へと通じる県道から、山頂までドライブウェイが通じ、車で参拝できる。
三国峠	多可町 朝来市	多可町加美山寄上から朝来市生野町長野に通ずる峠。三国岳（858.2m）の麓の峠である。
播州峠	多可町 丹波市	播州峠は、丹波市青垣町と東播磨の多可町加美町とを結ぶ。大名草峠ともいわれ、播丹の生活溶炉であった。道路に沿って杉原川が流れ、幻しの和紙とまで言われた杉原紙をすく“紙すきの村”がある。

峠の名称	市町	概要
清水坂	多可町 丹波市	多可町加美町清水から丹波市氷上町三原へ通ずる峠道。
遠坂	多可町 加西市	多可町八千代町遠坂から加西市上芥田町へ通ずる峠道。
媛が峠	加古川市 姫路市	加古川市志方町法華口から、姫路市小原へ通ずる伝説を持つ峠。昔法華山の麓に袈裟太郎という盗賊がいて、その子分の中に一人の農夫がいた。よく働くうえに人にも親切で、まさか、盗賊の子分であるとは、誰も気づかなかった。ある日のこと、農夫は、日の暮れるのを待って、いつもの峠へおいはぎに出ていると、女らしい人影が近づいて来たので斬りつけると、「あれエー」と女の声の叫びごえ、男は思わずぎくっとした。それは隣村へかたづいている一人娘の叫び声ではないか、娘不憫さ、おのれの罪の怖ろしさに驚き、それぎり、その農夫は、行方知れずになってしまった。村の人は、かわいそうな娘のために塔を立て、また地蔵の像を刻んで、その上にまつた。「子切り地蔵」と呼ばれたという。現在、この峠を越して、志方の町をはすれて、小原の池の堤の下の道のそばに“媛が塚”と呼ばれる大きな五輪の塔が残っており、媛が峠の悲しい話と結びつけている。
駒爪峠	高砂市 加西市	山陽電鉄の高砂駅からまっすぐ北へ延びる県道高砂北条線が、JRの山陽線を越えるとゆるやかな登り坂になり、小さな丘のような山は赤土と岩が露出し、やせた赤松が岩肌にしがみついて生えているなかで、少し大きい赤松が目につく坂の上が駒ノ爪峠。道の右手に大きな雑木が生え、石柱の垣に囲まれているのが、白雉2年（652年）法道仙人が法華山一乗寺を開くために馬に乗って空からここに舞い降りたという伝説の地「駒ノ爪」。

西播磨

峠の名称	市町	概要
一本松峠	姫路市	姫路の広峰神社へ参拝するために四方から登ってきて、この一本松峠は、今から神社へ参拝するための心の清浄する場所とも、休けいの場所ともいわれた。また、昔は、神さんの注連縄をかけた峠ともいわれ、明治時代には、しでかけ神社があった。現在は、小さな道標だけが残っており、増位山、広峰ハイキングコースにもなっている。
大堤峠	姫路市	姫路市林田町大堤から、夢前町菅生潤へ通ずる峠。現在、県道で、重要道路となっている。
長源寺坂峠	姫路市 たつの市	姫路市鴨池から、この峠を越えるとたつの市に入る。峠からは、林田の里が一望できる。
井野の峠	姫路市	姫路市林田町上伊勢から、林谷へ通ずる峠。近畿自然歩道にもなり、家族ハイキング向きのコースである。
高取峠	相生市 赤穂市	高取峠は“忠臣蔵街道”と異名を取る赤穂街道にある。相生から赤穂に抜けるこの峠は、標高120メートルの高取山を東西に走っている。山深く険悪な山道で最大の難所であった。約400年前に赤穂城主になった浅野公が道をつけて参勤交代に使い、官道の認定を幕府からもらった。しかし、この道は山陽道から見ると支道であり、脇道にすぎなかった。元禄の赤穂事件の第一報を藩に知らせる早駕籠がここを駆け抜けたのは320年前のこと。

峠の名称	市町	概要
椿峠	相生市 上郡町	相生市矢野町と上郡町高との境にある峠。この峠は、平安時代の中国街道で、鎌倉時代に造られたと思われる石仏が二体安置してある。ある武士が夜この峠に来たところ化物が襲ってきたと思い、刀をふりあげ、その化物を切りつけた。あとでよく見れば化物でなく石仏であったという。今に一体の石仏には三つもの切傷がある。
二木峠	相生市 たつの市	相生市矢野町二木からたつの市揖西町大蔵内へ通ずる峠。この峠には、縁切り地蔵があり、離縁を望む人は頭髪を切り、その髪を供えて、頼むと願いが叶えられるという。
栢峠 (かしわ)	相生市 たつの市	相生市鷺浜からたつの市御津町尼谷へ通ずる峠。その昔、この峠に1本のカシワの大木があり、そこから峠の名が付いたようであるが、今はない。まだ室津が遊女の町として知られていた、大正末頃までは、相生の若い衆たちがこの山を越えて、通って行ったという。当時は「尻見坂」と呼んでおり、相当険しい山道だったというが、若者たちには苦にならなかったらしい。室津は、遊女発祥の地として栄えただけに、この一帯は遊女にまつわる話が多い。
鳥打峠 (真木峠)	赤穂市	赤穂市の南西にある峠で、昔（昭和38年に赤穂市に編入）は、岡山県との県境であった。古くからの言い伝えで、この峠の池には、沢山のキジがいたそうで、このキジを捕っていたので鳥打峠と呼ばれている。一方、福浦の人は、鳥打峠と呼ばず真木峠と呼んでいる。
福浦峠	赤穂市 備前市	赤穂市福浦から、岡山県備前市日生町寒河に通ずる県境の現在の峠。
湯の内峠	赤穂市	赤穂市大津から、険しい山越しに西有年へでる峠道で、土地の人が命峠という位の山道であった。
鯨峠 (なます)	赤穂市 上郡町	赤穂市西山田から、上郡町落地へ通ずる峠。
帆坂峠	赤穂市 備前市	赤穂市と岡山県備前市の県境の峠。この峠の中腹に青い水を湛えた池があるが、昔から“おろち池”と恐れられた池である。おろち（大蛇）は山に千年、野に千年、海に千年暮らして、はじめて“昇竜”となるのだが、この池のおろちは、山と野の二千年が終わりに近づいたので海へ出たくてたまらなくなった。しかし、池のまわりにはムロ松が、たくさん生えていて、葉が落ちるたびに背中に刺さるので痛くてたまらず、なかなか海へ出られそうになかった。そこで、ミコに化けて通行人にムロ松を切ってもらおうとしたが、旅人は化け物と間違え気絶したので、ミコは元どおりのおろちにもどって、旅人を飲みこんでしまった。このことを聞いた岡山藩の武芸者がこのおろちに会うために、池のほとりに来たところ、にわかにイナズマが走って美しいミコが現われ「ムロ松を切って下さい」という。「よらしい」と答えた武芸者が松を切っていると池の堤防が崩れてしまった。近在の人々は、これは切られたムロ松の怒りだと考え、付近一帯にムロ松を植えてお詫びをしたところ、以後池は切れなくなったという。また住んでいたおろちは、堤防が切れたときに、その水に乗って、憧れの海へおどり出たと伝えられている。今も、池のほとりに沢山生えているムロ松は、別に珍しい木ではないがこのように群生しているところは珍しい。
清水峠	姫路市	姫路市夢前町置本から同町寺へ通ずる峠。近くに書写山円教寺がある。
暮坂峠	姫路市	姫路市夢前町宮地から香寺町奥須加院へ通ずる峠。
高坂峠	神河町 多可町	神河町神崎町岩屋から多可町加美町奥荒田へ通ずる峠。

峠の名称	市町	概要
市原坂	神河町 多可町	神河町神崎町新田の水谷から、多可町加美町市原に通ずる坂道。和紙の原料やこんにやく玉などが、この坂越で出荷され、加美町からは、米などを買ってきたという重要な道であった。この坂を越えるとき、弁当のごはんを少しだけ、残しておくという習慣がある。ある日のこと、新田の利助さんは、加美町で用事を済ませて、市原坂を急いで帰って来たのだが、腹がへって動けなくなった。ひだるがつくといい、昔、この坂で飢え死にした人の魂がとりついたので。誰かが後ろから引っ張っているようで、足が前に出ない。弁当のごはんをせめて一口でも残しておいたらと後悔したが、どうすることもできず倒れこんでしまった。通りかかった庄屋の九右衛門さんに起こされた利助さんは、腹がへって動けなくなったことを話すと、九右衛門さんは、さっそく、自分の弁当をあけて、ごはんを一口、草むらへ入れて経文をとえ、残りのごはんを利助さんに食べさせ、動けるようになったという。それ以後村人達の間、弁当を少し残しておくという習慣がついた。
釜坂峠	市川町 加西市	市川町上瀬加から加西市上若井町へ通ずる峠。
舟坂峠	市川町 多可町	市川町寺家から多可町八千代町上三原へ通ずる峠。
坂の辻峠	神河町 宍粟市	神河町大河内町と宍粟市一宮町の町境の峠で、播州と宍粟を結ぶ重要な生活道路であった。人里離れた奥山で、非常に淋しい、険しい峠であったため、いつの時代にか、地蔵さんを建立して、人々が心のささえにしてこの峠を利用したのである。現在は、県道西脇山崎線として道路改良が行われている。
屋津坂峠	たつの市	たつの市の室津泊は、神話の時代から語り継がれた港町、奈良時代には“摂播五泊”のひとつに定められていた。江戸時代には、西国大名の参勤交代の宿場町として栄えた。そして、ここを基地に、屋津坂の峠を越え、西国街道へと入っていった。姫路へは海岸沿いの七曲りを行く室津道は官道ではなく、大名は通らず旅人の道であった。室津千軒とうたわれた室津の海駅は、遊女の町であり、漁港であり、物資集散所でもあった。西国大名の御用商家や出張所があり、これらが街並みを形づくり、その面影を今も残している。
両見坂峠	たつの市	たつの市は古き街並みを残し醤油の芳しい香りが漂う街でもある。自然林が覆う鶏籠山の山すそにある聚遠亭の横から、赤トンボの歌碑のある紅葉溪を登ると両見坂峠に出る。この峠道は揖保川の清流に沿って北上すると天然記念物に指定されている鷲崎の屏風岩に出る。明治の文豪国木田独歩の旧邸跡が旧城下町の霞城町にある。また、三木露風の碑は龍野公園の入り口にあり、露風の胸像レリーフと作曲家山田耕作の五線譜が入った“夕焼け小焼けの赤とんぼ・・・”の『赤とんぼ』の歌碑もある。
相坂峠 (筋原峠)	たつの市	たつの市新宮町相坂から筋原へ通ずる峠。相坂は「藍山の坂」というところからその名ができた。この山には、昔から染料として使われた藍草がたくさんはえていたので藍山と呼ばれた。
角亀峠	たつの市	たつの市新宮町角亀から同町栗田へ通ずる峠。
山田峠	姫路市 太子町	山陽道で姫路市青山から太子町山田に通ずる峠。江戸時代旅人がとぼとどった峠、いまは国道2号線、団地、ゴルフ場、レジャーセンターの間を通り、自動車の波である。
星ヶ峠	上郡町	上郡町落地から、同町人石へ通ずる播磨自然高原の峠である。

峠の名称	市町	概要
有年坂峠	相生市 赤穂市	相生市若狭野町から赤穂市有年へ通ずる峠、小山峠ともいう。坂道を下りきったあたりから、人家が多くなって、一里塚がある。峠を越したところに三軒の茶屋があって、三軒屋といっている。
船坂峠	上郡町 備前市	上郡町梨ヶ原から備前市船坂へ通ずる峠。播磨と備前の国境であり、関所もあった。江戸時代まで、三つの茶屋があったというが、今は何もない。峠道も昭和30年のトンネル開通で、ほとんど人は通らない。ここを越えると、岡山県三石、街道は下関まで果てしなく続く。
山伏峠	上郡町 備前市	上郡町皆坂から岡山県の備前市吉永町下畑へ通ずる県境の峠。
杉坂峠	佐用町 美作市	中国自動車道が兵庫県と岡山県の県境杉坂トンネルを抜けるが、トンネル上部の杉坂峠は歴史的にも重要な地点であった。700年前の後醍醐天皇の隠岐の島へ流される際の太平記ゆかりの地である。杉坂峠の登り口にある皆田の集落では「梅田紙」として全国に名が知られた和紙が漉かれていた。
石井峠	佐用町 美作市	佐用町と岡山県美作市大原町を結ぶ因幡街道の峠。石井峠の山は深く、県下第5の高峰日名倉山（標高1,047 m）をはじめ、500～600mの山々が連なり深い谷をつくる。この街道が拓げられたのは明治28年、軍用道路として造られた。この道の開通で鳥取、岡山両県の林産海産物もこの峠から人ってきたという。佐用まで16km、大原まで4km、このため峠の人々は県境を越えた大原の方が生活圏となっていた。
寺坂峠	佐用町	佐用町井ノ久保から、南光町三河へ通ずる峠。昔は、この山道が、因幡と但馬を結ぶ重要な街道であった。明治の中頃に、現在の道とほぼ同じコースに改修されたが、やはり山を越していた。その後、戦争前に大改修され、頂上のところを十数メートルも切り下げて、堀割りにした。因幡但馬の商人が牛馬往来安全を願って、建立した石地藏が、移転されるたびに道は良くなった。また、この地藏が大きな石臼の上に座っていることから、臼目地藏とも呼ばれ、ウスメが薄目に通ずることから、眼病平癒の地藏さんとして、広く信仰を集めている。
植木谷峠	佐用町	佐用町西河内から、この峠を越して、上月町田和に通ずる。この峠の頂上に石地藏を祭った小さなお堂が建っているが、そこから細い道が山にはいつており、数十メートル行くと、コンクリートの屋形があって「いっきんぎよ」という神様が祭ってある。昔、植木谷の村に、頭が割れるほど歯が痛んで困った人があり、いろいろと手あてをしたり、神だのみなどしてみたが少しも痛みがおさまらず、食事もできず、仕事もできず、四六時中顔を抱えて、うめき続けていた。こんな痛い目にあって生きているよりは、死んだ方がましだと思ったその人は、村の人に頼んで棺桶を買ってきてもらい、念仏釘を持って生きながら桶に入り葬式をしてもらった。その人の墓が「いっきんぎよ」だといわれ、ここに万燈幡（竹串に白い紙を貼った小さな旗を作り何十本も並べて地面に立てる）と線香をもって詣ると、どんなに酷い歯痛でも治してもらえするという。
釜坂峠	佐用町 美作市	佐用町平福から岡山県的美作市大原町へ通ずる県境の峠。峠のふもとに泣き清水（なきしみず）というきれいな清水がわいている。昔、ここまでやってきた武士が、平福の一貫清水に忘れものをしたことに気づいたが、陽はすでに西に傾き、今から引き返すとなると、今夜は野宿でもしなければ宿がとれない。さすがの武士も、あれやこれやと思案をし、暮れ迫る峠の上でぼろぼろと涙をこぼし、男泣きに泣いたという。泣き清水のゆえんである。
新田坂	佐用町	佐用町平福から、釜坂峠へ行く途中の坂道。この坂道の近くに「滝大明神」があるが、このお堂のほわりには、使い古した草刈鎌がたくさん積みあげてある。この明神さんは、クサ（藪）や吹出ものなどのおかげがあるといわれ、「クサを刈り取ってもらう」という意味で、鎌を持ってお詣りする。

峠の名称	市町	概要
万能峠	佐用町 美作市	<p>播州と美作を結ぶ最短距離の出雲街道として、万能峠の峠道が開かれたのは、慶長のはじめの頃と伝えられる。慶長9年（1604年）大道五街道に準ずる道として扱われ、以後、杉坂峠に代る往来の要所となった。備前軍記によれば、天正6年（1578年）上月城奪還を旨とする吉川元春が、この峠を越えて宇根山城に入ったとの記述もある。旧万能峠は、俳聖松尾芭蕉も越えており、「梅が香にのっと日の出る山路かな」の句が残され、土居（[苗]山県作東町）の俳人妹尾有磯が寛政5年（1793年）に梅ヶ香塚を立てているが、今は越え行く人もなく、草に埋もれている。</p> <p>現在の国道179号線の走る万能峠は、明治の末頃、播美鉄道建設計画が進められる中で、資材運搬道として開発され、万能峠トンネルの開通（大正5年）、国鉄姫神線の開通（昭和11年）とともに以来、幾度かの改修によって兵庫県と岡山県を結ぶ主要道路として発展を続けている。</p>
八重谷峠	佐用町 宍粟市	佐用町南光町下三河から宍粟市山崎町土万へ通ずる峠。
千合地峠	佐用町 宍粟市	佐用町南光町門前から瑠璃寺を通り、宍粟市千種町倉谷へ抜ける峠道。
宇野山峠	佐用町	<p>佐用町三日月町新宿から南光町林崎に通ずる峠。この宇野山に大昔、鬼が住んでいたという伝説があるが、幕末になって、本当に鬼が出た。三日月に常日頃、赤鞘の大刀を腰にして人を人とも思わぬような横柄な浪人が住んでいた。あまり、人に好意を持たれるような人柄ではなくて、人呼んで「赤鞘の喜八」と姓を呼ぶ人もなかったという。また、その頃、赤穂郡矢野村の木神部落に嘉平という呉服物を行商する男がおって、このあたり一帯の人々とも親しく交わっていた。この嘉平から、商品を借りて、代金の返済に窮したのが赤鞘の喜八。どうにもならなくなって「切り取り強盗武士の習」とばかりに、ある夜ここ宇野山の密林に連れ出し、ついに嘉平を斬殺して知らぬ顔をしていた。この殺人事件を扱ったのが森藩で、喜八は召し捕られ殺人犯として処刑された。鬼畜に劣らぬ悪業として今もなお、古老の間に語りつがれている。殺された嘉平の娘が、成人した後、父の冥福を祈って、ここに地藏尊を安置した。人呼んで「嘉平地藏」という。現在、宇野山の頂上にあるのがそれで、130cmもある大きな石の立像で「明治39年5月、施主永正ムツ工」と刻まれている。</p>
切窓峠	宍粟市	宍粟市山崎町葛根から、同町比地へと通ずる峠。南光町からの八重谷峠とこの峠の間の旧土万村は、朝霧が有名で、松尾神社（男の神様）に、佐用姫（女の神様）が人目をしのんで夜遊びをするには、この深い霧は好都合であり、朝帰りのための霧だといひ、宍粟の夜ギリ佐用の朝ギリといわれている。
須賀峠	宍粟市 姫路市	宍粟市山崎町須賀沢から姫路市安富町へ通ずる国道29号線にある峠。峠のふもとには、城郭スタイルの願寿寺の太鼓堂があり、現在は、そばに国道ができたため、あまり目立たないが、道の両側には立派な松並木があったとも伝えられ、また、江戸時代の参勤交代の行列はここを通った。
白口峠	宍粟市	宍粟市山崎町上ノ下から同町上月へ通ずる峠。麓のもみじ橋の紅葉は、秋には、谷川に映えて美しく、紅葉の名所となっている。
狭戸坂峠	宍粟市 姫路市	宍粟市山崎町宇原から姫路市安富町狭戸へ通ずる峠。秀吉が長水城を攻めた時に、この峠を越した。地藏が安置され、人々の信仰が厚い。
本郷峠	宍粟市 佐用町	宍粟市山崎町折橋から佐用町三日月町大内谷へ通ずる峠。
小茅野越 (イチガ峠)	宍粟市	宍粟市山崎町小茅野から千種町下鷹巣へ通ずる標高約550mの峠道。

峠の名称	市町	概要
安志峠	姫路市 宍粟市	姫路市安富町安志から宍粟市山崎町蟹ヶ沢へ通ずる峠。
春峠 (うすずく)	姫路市	姫路市安富町春から夢前町野畑へ通ずる峠。
高野峠	宍粟市	県道朝来・大原線で宍粟市一宮町と波賀町の町境に位置し、峠を西に4km程下ると、国道29号線(因幡街道)に通ずる。その昔、中国平定の命を受けた羽柴秀吉が姫路城に陣を進め、但馬、播磨をつぎつぎに攻略、210年余の歴史を刻んだ長水城(山崎)もついに落城した。その時、城主宇野政頼の娘禎姫(おさだひめ、16才)は、将兵に守られ、安積にのがれたが、ここにも敵兵が待ちうけていたため、将兵は打死し、姫は、高野峠を彷徨っていた。手に金色の手さげ袋をもったのを、麓の炭焼き弁五郎が見つち、中身を金と思い殺害した。だが、金でなく「カチグリ」であったという。その姫塚が、峠を東に2km下った地藏庵に今もある。
富士野峠	宍粟市 養父市	宍粟市一宮町富士野から、養父市大屋町明延へ通ずる、播州・但馬を結ぶ標高約480mの峠。昔から、葦原志許平命や天日槍命の国占めで通られたという道である。また、秀吉の但馬攻、山名軍と赤松軍の戦いへの播但最短通路であった。揖保川と円山川をつなぐように、県道山崎八鹿線の分岐点であり、播州高原と但馬山地の800mから1,000mの中級の山々がはてしなく続くが、現在は、トンネルが開通している。富士野の大神谷鉱山は、銀、銅、亜鉛を含んでおり、一宮町富士野は、天領の鉱山役所の名をつけたものである。また、奈良大仏に銅を送ったという明延鉱山は今も続き、明延から神子畑への鉱山鉄道が走っている。
中坪峠	宍粟市 神河町	宍粟市一宮町中坪から神河町大河内町高倉へ通ずる峠。
塩地峠	宍粟市	宍粟市千種川町から山崎町への道、塩地峠は“木炭の道”として、千種の生活を支えてきた峠の一つであった。下河野の砂子ほ集落から山崎町大沢の小河内の集落に通じる海拔450メートルのこの峠は、千種町側からは、約4キロのゆるい登りとおおなっているが、山崎への下りは急で山崎町側から見れば“大変な峠”という印象を与える。峠の地藏堂には立像と座像の2体の地藏尊が祀られており、旅人や村人の安全を祈念してきた。
墓坂峠	宍粟市	県道朝来・大原線の宍粟市波賀町と千種町の町境にあり、標高630mで周囲は、杉、桧が植林されている。古くは、ここに月光寺という寺があったといわれているが、今は跡形もない。千種から但馬方面には、この峠がよく利用されていたようである。
カンカケ越	宍粟市	カンカケ国有林林道の宍粟市千種町境にあり、標高900mで自動車の通行は不可能である。周囲は紅葉樹等が密林し、県下に誇る原不動の滝があり、滝のふもとには、町営サイクリングターミナルが建設され、各地から訪ずれる客も年々多くなり、観光地として脚光をあびている。
江浪峠	宍粟市 若桜町	宍粟市千種町の西北部にある西河内字天兒屋から緩かな谷筋を北上して中国山地の山背の鞍部(標高約1,098m)を越える。因幡(鳥取)側には吉川(鳥取県若桜町)がある。明治22年に幅員6尺(約1.8m)に改修した主要道(現在県道)で、峠の頂上付近など部分的には改修当時の幅員がわずかに残っているが、今は荒廃し、谷川化し湿地となった部分が多い。
大通峠	宍粟市 若桜町	宍粟市千種町河内を北上して三室高原のふもとから急坂を登り、標高約1,000mで大通峠を越えると若桜町に通ずる。峠の下(因幡側)でさらに小通峠を越えて吉川に、そのまま谷沿いに下ると因幡街道の中原に出る。

峠の名称	市町	概 要
戸倉峠	宍粟市 若桜町	国道29号線は宍粟市山崎町かあ揖保川に沿って北上する。安積から支流の引原川沿いに行き、波賀町の安賀あたりから目に見えて上りになる。そして音水湖（引原ダム）の下、原の集落からは本格的な坂。ダムの横の急な坂を登り切り、ダム側面を通して鹿伏の集落に出る。ここからまたまた上り坂で、県境の戸倉の集落へ。そしてカーブと急坂が続いてやっと戸倉峠にでる。峠からは一気に鳥取県の若桜町に下る。戸倉の周辺、金品には瀬戸内側では珍しいスキー場も多く開設されている。
カナゴ峠 (中江峠)	宍粟市 若桜町	汪浪峠と大通峠の間にカナゴ峠と中江峠がある。カナゴ峠は江浪峠寄り、奥天児屋から中国山地を越えるのだが、カナゴ峠の名から考えると、鉄山隆盛のころに砂鉄運搬に利用された間道であろう。中江峠は、西河内字池田から、大通峠の西側で鞍部を越え、1kmほど下って大通峠に出合って中原に至るもので、池田の人びとが利用したものと思える。
ミソギ峠 (峰越峠)	宍粟市 西粟倉村	宍粟市千種町西河内字鍋が谷の奥から、岡山県西粟倉村作州大茅（おおがやの）の新田に越える峠。標高約1,000m、現在、岡山側から立派な林道がつけられているが、昔の峠とは異なる。峠の向こう側には、永昌山鉄山があって、西河内字天児屋にいた鉄山の人はそこに働きに行き、親類のある人が通る程度の細い道である。
志引峠	宍粟市 美作市	宍粟市千種町西山より、美作市作州後山に越える峠（標高685m）で、上ノ道と下ノ道がある。上ノ道（上ノ峠）は作州ニュー谷に下りるが、後者は山（後山）参りの人がよく通り、村内の者だけでなく、「シモ」の方（千種川下流）からの人がよく通った。下ノ道（下ノ峠）は木炭の背負い出で通ったが、後山から「クワウジ」（貸し牛のこと）が新宮・竜野方面に出るときに、通った。これは後山の人が、田の耕作が終わると、5月25日～6月初めに峠を、牛を引いて貸し牛に出てゆき、田植が終わると帰ってくる。同様に秋、麦まきが終わるとまた通るわけである。
センコウジ峠 (奥海越)	宍粟市 佐用町	日名倉山の南方で、宍粟市千種町七野から倉谷を通り佐用郡奥海に越せば、作州に通ずる。
トリカ峠	宍粟市	宍粟市千種町岩野辺字内海からこの峠を越えると波賀町齊木に出る。千種町側からは、比較的ゆるやかであるが、下りは急傾斜である。但馬の養蚕が盛ん頃は、この峠を越え、曲里に出て三方谷を通り富士野峠を越えるか、西谷筋を北上して、道谷から若杉峠を越えて養父郡の養蚕地帯へ出かせぎに行った。また、明延鉱山への出稼ぎ人は、このトリカ峠～富士野越えで出て行った。木炭運搬も西河内や河内からここを越え安賀まで行き、齊木側が急な坂なので、平地で8・9俵馬に積んでいても、この峠では、馬の荷を人が一部背負って軽くしてやったという。

但馬

峠の名称	市町	概 要
河梨峠	豊岡市 京丹後市	豊岡市下ノ宮から、京丹後市久美浜町河梨へ通する県境の峠。豊岡の中心から、東北へ6kmあまり、標高175mの峠である。代官所が久美浜町にあった江戸時代は、まさに“天下の往来”であった。大正時代には、豊岡～久美浜間を6人乗りの馬車がラッパを鳴らしながら走っていたという。頂上まで3分の2くらい登ったところに昔は、“中の茶屋”があった。下ノ宮の子供たちは、丹後へ桑の葉を運ぶ車の先引きや後押しのアルバイトをし、この茶屋までくると、饅頭を御馳走になり、頂上に着くと1円も貰えたという。酒1升1円の時代の話であるから、子どもにとっては、大へんいい“かせぎ峠”であった。
登尾峠	豊岡市 福知山市	豊岡市出石町から但東町を経て登尾峠を越え、京都府のJR山陰線の上川口駅前へ出て、福知山へと通するこの道は山陰道の裏街道として旅人には古くから親しまれた道路である。但東町の久畑の集落の入口に、出石藩久畑関所跡の記念碑がたつ。出石は白磁の街として、また城下町の古い街並み、名物出石そばなどで観光ブームに湧いている。
三原峠	豊岡市 京丹後市	豊岡市三原から京丹後市久美浜町久美浜へ通する県境の峠。
飯谷峠	豊岡市	豊岡市城崎町飯谷から、同町畑土に通する峠。城崎と京都府を結ぶ街道の峠である。城崎町は天領であり、その代官所が、久美浜町に置かれていたこともあり、京都府（丹後）と兵庫県（但馬）を結ぶ交通の要路であった。海底の隆起によってできたといわれる標高100m程の峠であるが、その急峻な地形のため、相当な難路であったといわれる。いま、県道竹野久美浜線として、城崎、久美浜・天の橋立を結ぶ最短自動車道である。この峠は、岩見重太郎が天の橋立へ行くのに越し、また、近代では、柳田国男、河東碧梧洞も越えた峠。
伊賀谷越	豊岡市	国鉄の玄武洞駅より上山を通過して伊賀谷へ至る最短距離、“いがだにごし”または“タアゲ”そ地元の人では呼んでいる。今は、伊賀谷より自動車道が国道312号へ接続し、豊岡へ通じているが、自動車道が通じておらず、自家用車の普及していない昭和40年頃までは国鉄の駅へ最短距離であるこの“いがだにごし”が多く利用された。
鋳物師戻峠 (いもじも)	豊岡市	鋳物は、金属を溶鉱炉で溶かし、鋳型に流し込んでつくった物で、その職人を鋳物師という。鋳物師戻峠は、村から村へと鍋や釜の補修に廻っていた鋳物師が、城崎での仕事を終えて西隣の竹野町へ、峠の頂上で一服してひょいと上を見ると大きな岩が今にも落ちて来そうで、びっくり仰天して元来た城崎に引き返したことからこの名が付いた。城崎温泉と竹野を結ぶ唯一の道であった。鋳物師戻峠から流れる水は、城崎温泉街の中心を通過して円山川に注ぐ大谿川。
番屋峠	豊岡市	豊岡市竹野町床瀬から豊岡市目坂へ通する峠。
船越峠	香美町	香美町香住町矢田から同町市午に通する峠。
佐古峠	香美町	香美町香住町口佐津から同町浦上へ通する峠。
花見峠	香美町	香美町香住町上計から同町境へ通する峠。

峠の名称	市町	概要
水山峠	豊岡市	豊岡市日高町東河内から竹野町二ツ家へ通する峠。
太田越	豊岡市	豊岡市日高町太田神鍋から竹野町床瀬に通する峠。
駒返峠	豊岡市 京丹後市	豊岡市出石町奥小野から京丹後市久美浜町布袋野へ通する県境の峠。
鱒山峠	豊岡市	豊岡市出石町谷山から同町寺坂へ通する峠。
浅間峠	養父市 豊岡市	養父市八鹿町浅間から豊岡市出石町福見へ通する峠。
天谷峠	豊岡市 福知山市	豊岡市但東町天谷から福知山市夜久野町田谷へ通する県境の峠。
小坂峠	豊岡市 福知山市	豊岡市但東町小坂から福知山市夜久野町才谷へ通する県境の峠。
尉ヶ畑峠	豊岡市 京丹後市	豊岡市但東町坂野から京丹後市久美浜町尉ヶ畑へ通する県境の峠。
円城寺峠	豊岡市 京丹後市	豊岡市但東町唐川から京丹後市久美浜町市野々へ通する県境の峠。
薬王寺峠	豊岡市	豊岡市但東町薬王寺から同町赤奥へ通する峠。
神懸峠	豊岡市 福知山市	豊岡市但東町薬王寺から福知山市横尾へ通する県境の峠。
滝峠	豊岡市 与謝野町	豊岡市但東町赤花から与謝野町加悦町奥滝へ通する県境の峠。
加悦奥峠	豊岡市 与謝野町	豊岡市但東町奥藤から与謝野町加悦町加悦奥へ通する県境の峠。
岩屋峠	豊岡市 与謝野町	豊岡市但東町中藤から与謝野町野田川町岩屋へ通する県境の峠。
金山峠	香美町 豊岡市	香美町村岡町耀山から、豊岡市日高町阿瀬溪谷に通する峠。蘇武・妙見ハイキングコースとして親しまれている。蘇武岳からこの峠を越え、名草神社から八鹿へ抜ける。眺望のすぐれたコースである。名草神社は大名草彦命をまつり、古来から、農家の信仰が厚い。重文の三重塔、妙見杉で知られている。
八井谷峠	香美町 養父市	香美町村岡町八井谷から、養父市関宮町八木谷へ通する峠。但馬トンネルが昭和40年に峠の下を開通したが、それまでは、村岡町の牛市でセリ落とされた但馬牛、但馬杜氏、製糸工場に出かける女工さんがこの峠を越えた、生活の重要な峠道であった。
一二峠	香美町	香美町村岡町祖田YHから長坂へ抜ける峠道。北但馬の山間から海岸地帯、僻地の生活と自然にふれるハイキングコースの峠である。
大野峠	香美町 養父市	香美町村岡町大野から、養父市関宮町葛畑へ通する峠。葛畑には農村歌舞伎舞台があり、土人形が今もつくられている。
小城越	香美町 豊岡市	香美町村岡町小城から豊岡市日高町稲葉へ通する峠。
春来峠	香美町 新温泉町	春が早く来てほしい、そんな願いをこめた峠がこの春来峠。民謡「春来峠」は雪深く春を待つ但馬の人々の心を打つ。香美町村岡区と新温泉町のこの峠は難所であった。山陰から山陽方面の京都、大阪に抜ける分岐点でもある。今、峠は国道9号春来トンネルで通過する。越えて春来川のほとりの湯村温泉に入る。有馬、城崎とともに県下で3本の指に入る温泉の町である。源泉として98度の熱泉が湧き出る“荒湯（あらゆ）”が湯煙をのぼらせる。

峠の名称	市町	概要
芦屋坂峠	新温泉町	新温泉町浜坂から諸寄まではわずか2キロたらず。この真ん中にある芦屋坂と呼ぶ小さな峠、小さいが峠地蔵や庚申堂もある整った峠。諸寄は但馬の生んだ薄幸の歌人、前田純孝の郷里。浜坂には城山公園に山岳小説家新田次郎の『孤高の人』のモデルである加藤文太郎の碑、記念図書館が建つ。
桃観峠	新温泉町 香美町	新温泉町浜坂町久谷から、香美町香住町西浜に通ずる峠。この峠、昔は「ももうすき峠」と呼んでいた。一度、越えると股がとてみたいとなると、いうことでこの名がついたといわれるが、国鉄が、ここにトンネルを通す際に、「ももうすき」では具合が悪いということで、「桃見」にし、さらに「桃観」改めたという。桃観トンネルが難工事のため後藤総裁の山陰視察となった。当時、山陰東線は城崎まで、山陰西線は鳥取までであった。後藤総裁は城崎までは車で、城崎からは人力車や歩いて香住まで行き、大乘寺で一泊。大乘寺の重文の山水・芭蕉・孔雀の三間を、急ぎ畳み替えをして大歓迎したという。桃観峠はカゴで越えたい。
七坂八峠	新温泉町 岩美町	本県の西北端、新温泉町浜坂町居組と鳥取県岩美町陸上（クガミ）を結ぶ県境の峠。日本海の荒波を見下すいく重にもまがった景観の美しい峠道である。しかし、鉄道が開通して、トンネルが下を通るようになって、いままでの産業道路としての命脈はなくなった。峠には、高さ約26m、幹のまわり約5.3m、枝張東西32m南北35mもある1本の巨大な松があり、県指定の天然記念物にもなっているが、古くから、但馬、因幡の国境松として旅人をなくさめてきた。また、この大松にまつわる昔話で、鳥取の吉川経家の隠密は、けいそう坊というきつねであったというが、鳥取の陸上にしようからしいさんがおって、どうでも一ぺんけいそう坊をつかまえてやろうと考え、あるときけいそう坊が因幡から但馬に使いに来だが、おじいさんは、けいそう坊の一番すきな焼ねずみをこしらえ、これにシイラを釣る大釣針を刺し、七坂八峠の大松にぶらさげておいた。けいそう坊は、大好きなおいだが、がまんして居組までおりてきた。けれども、がまんしきれなくて、引返し、がぶりと大口で食いついたところひつかかってしまった。それで、忘れものをして、あとがえりすることを、この地方では、「けいそう坊の焼ねずみ」という。
野間峠	香美町	瀨川山、鉢伏山の間点、標高880mの峠であって、旧小代村、（香美町美方町）と旧兎塚村（香美町村岡町）福岡を結び旧道である。江戸時代初期、山名村岡藩主の陣屋が福岡にあったため、年貢米、まゆ等を上納するために使用された主要道であったが、後に村岡藩が村岡町村岡に移つたので、その後さびれて、野間峠を挟んでの集落、美方町茅野と村岡町大笹を往来するだけの峠となった。現在、野間峠付近に天然記念物「イヌワシ」の生息が確認され、野鳥の貴重な研究の場となっている。
小長迎峠 （こながた）	香美町 新温泉町	香美町美方町大谷と新温泉町肥前畑とを結ぶ標高980mの峠。交通機関の発達する前は、この峠を越えて大谷まで肥前畑の人が買い出しに通っていたが、交通網の整備とともに人も通らなくなった。この峠には、「けえんけえんこうとこと」という民話が伝えられている。小長迎峠をおじいさんとおばあさんが腰に弁当をつけて歩いていると、どこか遠い所で「けえんけえんこうとこと、ばばが尻にひっついた」というのでおばあさんが恐かつて、おじいさんに言うと、おじいさんが「ひっきたきやひっけ」と言えやと言うので、次にそのようにいうと、おばあさんの尻に大判、小判が沢山くっついた。それを伝え聞いたとなりの家のいじわるばあさんが急いで真似て峠に行つてその様にいうと、お尻に松脂がくっつき取れなくなったので、火であぶってとかしているとお尻がうつつで焼死んだ。それから後、悪いことをする人はこの峠を越すことができないという。
蒲生峠	新温泉町 岩美町	新温泉町千谷かり岩美町蕪島へ通ずる県道119号の県境の峠。国道9号は別途蒲生トンネルで通過する。

峠の名称	市町	概要
谷間地峠 (たにまじ)	養父市	養父市養父町堀畑から上野間の標高わずか100m、上り下り約1.5kmの短い峠道である。この峠昔は裏街道であり、表街道は、出石の大名が江戸に通った養父市場であった。大正の終わりに県道になったが、幅2mと狭かった。現在では、国道9号線になり、モーター、喫茶店等が軒をつらねる“繁華街”となっている。
若杉峠	養父市 宍粟市	姫路から鳥取への国道29号線の県境の集落が戸倉、その主らくの手前から右に取ると道谷の集落にでる。ここから但馬へ出る峠が若杉峠。但馬側は杉の美林のなかを通る山道の杉木立が良い。峠のかかりが若杉の集落である。ここでは、毎年8月に氏神の三社神社で行われる『ざんざか踊』が有名。また、横行の集落では、源平合戦で敗れた平家の姫君とともに氷ノ山のふもとに安住の地を見つけて住む平家の隠れ里として伝わっている。その先、筏の集落を北に行くと、高さ60メートルの玄武岩の垂直面を流れ下る“天滝”がある。
琴引峠	養父市	養父市大屋町宮垣から関宮町八木へ通ずる峠。
加保坂峠	養父市	養父市大屋町宮垣から関宮町八木へ通ずる峠。
力力ナベ峠	養父市	養父市大屋町岩井から養父町奥山へ通ずる峠。
氷ノ山越	養父市 若桜町	養父市関宮町福定から鳥取県若桜町春米に通ずる県境の峠道。県下最高峰の氷ノ山は、スズタケの密生した高原で格好の登山コース。冬はすばらしい山スキー場にかわる。山頂近くには、古瀬沼という湿地帯があり、オオミズゴケ、モウセンゴケなどが自生し、県の天然記念物に指定されている。
遠坂峠	朝来市 丹波市	「そとのものみち」と呼ばれたこの遠坂峠への道は、但馬と丹波を結ぶ古くからの交通の要衝であり、奈良時代ふもとの朝来市粟賀には古代の官道「山陰道」の「駅家(うまや)」があり、馬8頭が常備されていた。江戸時代には、この峠を佐治山峠といい、頂上を遠坂嶺と呼び、峠には金割の清水と呼ぶ名水もあったと記されている。現在は、新旧トンネルが開通している。峠の南の丹波市青垣町には伝統的の工芸品“丹波布”が織られている。峠の但馬側の粟賀には但馬一ノ宮といわれる粟賀神社が杉の巨木の中に祀られている。
生野峠 (青垣峠)	朝来市 丹波市	朝来市生野町大外から、丹波市青垣町大名草、紅葉で有名な高源寺へ通ずる峠。同じ名称であるが、生野街道の峠とは、別の峠道。いまでは、青垣峠の方がポピュラーである。
生野峠	朝来市 神河町	播州から峠を越えて但馬に入る。播磨と但馬の国境の峠が現在の生野峠である。播但の分水嶺生野は市川を南流させ円山川を北流させている。その2つの川に沿った道を但馬往還とよび播州側には播磨口番所が、但馬側には但馬口番所が設けられた寛政2年の絵地図が残る。その後播州側が真弓峠一つにまとめられた真弓番所に、但馬側は生野峠に但馬番所が設けられた。この真弓峠が生野峠と呼ぶ。峠の東には1200年以上前から開坑された“生野鉱山”があるが、現在は閉山され、史跡として観光客を集める。
千町峠	朝来市・神河町 宍粟市	朝来市生野町杉原からと神河町大河内町川上から宍粟市一宮町千町へ通ずる峠。
藤和峠	朝来市	朝来市和田山町藤和から同町奥へ通ずる峠。この峠から見る竹田城の雲海は絶景。

峠の名称	市町	概要
宝珠峠 (ほうじ)	朝来市	朝来市山東町楽音寺から、和田山町筒江へ通する峠。その昔、狐狸が往来の人をたぶらかしたというこの峠も、今は車で一瞬の峠路となった。この峠の名の由来は、「葬り峠」であるとか、境界を意味する「誇示」峠であるとかいわれる。この峠には「嫁殺し」という伝説が残っている。宝珠峠を登りつめて、筒江側に下り始めた左側に四反あまりの山田が開けているが、昔、ひどい姑がいて若嫁に「1人で今日中に田植えをしてしまえ」と命令した。鬼よりこわい姑の命令、一心に植えた若嫁は、心身の疲労がつつのり、ふと股の間からのぞき見た残り田の大きいのに心も動天し、そのショックでかわいそうに死んでしまった。それから「嫁殺し谷」と呼ばれ、以後、忌み地の道として嫁入り、婿入りには、この峠を通らなくなったという。また、その道をどうしても通らなければならない場合には、その「嫁殺し谷」のところに杭を打ち、縄でしきりをして通ったという。
八代峠	朝来市 養父市	朝来市朝来町上八代から、養父町井坪へ通する峠。上八代も井坪も同じような谷合いの20戸余りの山村であり、この峠も淋しい峠であった。現在は、舗装もされ、バスも通っているが、つい最近のことである。頂上付近に「南無阿弥陀仏」の名号塔が立てられ、また、峠のかかりの上八代には役行者像が岩窟の中に坐り、井坪には、石地藏が立ち、旅の安全を願っている。上八代では、つい最近まで、この役行者に心経供養する信仰行事が残っていた。村中総出で三日間役行者の石仏を起点として出発し、心経を称えながら各戸を廻り、最後にこの石仏に帰ってくるといったものであり、旅人の安全と村へ疫病や悪神が入らないように祈った。
伊由峠	朝来市	朝来市朝来町川上から、山東町与布土へ通する標高401mの峠。この峠を東へ下って与布土から迫間へ出る途中からの栗鹿峰の眺望はすばらしい。

丹波

峠の名称	市町	概要
舟坂峠	丹波市 多可町	丹波市氷上町三方から多可町加美町山崎上へ通する峠。
鴨内峠	丹波市	丹波市氷上町鴨内から市鳥町鴨坂へ通する峠。
小より坂	丹波市	丹波市氷上町石生にある伝説の坂道。昔、昔、その昔、山に囲まれたこの石生の地は、水分を境にして由良川に注ぐ水が、いつの間にか、よどんで一部が沼地になっていた。この沼の西に小さな坂があり、その坂の麓まで沼は続いており、麓にはいつも鯉がより集っていたので、村人達は、その鯉を取って糧にして生計を潤していたという。当時、隣村へ行くのには、その小さな坂を唯一の往還路として利用していた。村人たちは、麓に集る鯉を見て、いつしか、その坂を鯉より坂と呼ぶようになり、それがなまって、小より坂と呼ぶようになったという。
穴裏峠 (あなのうら)	丹波市 福知山市	美人の固有名詞にまでなっている小倉百人一首でも有名な小野小町は、京都府福知山市小野に住んでいた。兵庫県丹波市青垣町の東芦田の集落に住んでいた深草少将が、はかない恋と知りながら雨が降っても雪が降ってもこの穴の浦峠を通い詰めたそうです。穴裏峠になったのは最近のこと。
榎峠	丹波市 福知山市	丹波市青垣町中佐治から福知山市法用へ通する県境の峠。

峠の名称	市町	概 要
塩久峠	丹波市 福知山市	丹波市青垣町奥塩久から福知山市樽水へ通ずる県境の峠。
蓮根峠	丹波市 福知山市	丹波市青垣町大野から福知山市樽水へ通ずる県境の峠。
梨木峠	丹波市 福知山市	丹波市青垣町山垣から福知山市黒石へ通ずる県境の峠。
天王坂	丹波市	丹波市春日町長王から氷上町多田野へ通ずる坂道。
野瀬峠	丹波市 福知山市	丹波市春日町野瀬から福知山市三和町田ノ谷へ通ずる県境の峠。
三春峠	丹波市 福知山市	丹波市春日町原から福知山市三和町田ノ谷へ通ずる県境の峠。
奥野々坂	丹波市	丹波市山南町奥野々から柏原町下小倉へ通ずる峠。
小野尻峠	丹波市 多可町	丹波市山南町小野尻から、多可町中町鍛冶屋に通ずる峠。この峠を越えると播州なので、言葉も播州なまりが強いという。ここには、最近、注目され出した岩尾城跡がある。山南町和田は、旧藩時代の宿場町の面影を町並みのあちこちに残している。江戸時代から三大高貴薬といわれた黄蓮の産地である。
塩津峠	丹波市 福知山市	丹波市市島町下竹田から福知山市日吉が丘へ通ずる県境の峠。
戸平峠 (とべら)	丹波市	丹波市市島町戸平から同町前地へ通ずる峠。
鐘ヶ坂峠	丹波市 丹波篠山市	丹波篠山市（旧多紀郡）と丹波市（旧氷上郡）の境にあるこの鐘ヶ坂峠は、桜の名所として知られていた。丹波吉野とまで呼ばれた。この桜は明治中頃に鐘ヶ坂トンネルが竣工したときの記念植樹。浮世絵師の歌川広重の目にとまり、「六十余州名所絵図」の一つに描かれた。峠道から見上げる頂上に、奇岩が橋を架けたようになっていて、“鬼の架橋”と称される。明智光秀がここに金山城を築いた。光秀の埋蔵金伝説もある。
天引峠	丹波篠山市 南丹市	大和朝廷の成立の頃からの古代の道“山陰道”は、京都から老の坂を濃し、亀岡から西へとり天引峠を経て篠山盆地を真西へと進み、城下町篠山から北へ柏原、石生へと続いた。この京都から丹波までの山陰道を京の人は“丹波路”と呼んだ。峠の西“福住”は近世の宿場町である。福住から2キロ足らずで飛曽山峠、その下に古代の道の小野駅家（うまや）跡がある。
三本峠	丹波篠山市 三田市	三田市あ相野から丹波篠山市今田町立杭へ通ずる峠を越えると、そこは陶郷立杭である。“三本峠窯跡”を見ながら峠を一気に下ると眼前に立杭焼（丹波焼）の里が広がる。この三本峠こそ立杭焼の発祥の地である。丹波焼は、常滑、瀬戸、信楽、備前、越前と同じように“日本六古窯”の一つである。
古坂峠	丹波篠山市	丹波篠山市後川上から同町曽地口へ通ずる峠。下を城東トンネルが走る。
原峠	丹波篠山市	丹波篠山市後川新田原から同町福住へ通ずる峠。近くに箆坊温泉がある。
飛曽山峠	丹波篠山市	丹波篠山市辻から同町小野新に通ずる峠。
原山峠	丹波篠山市	丹波篠山市奥原山から、亀岡市竹井に通ずる県境の峠。標高350mのけわしい峠道である。園部へは、天引峠を越すより、半里（約2km）ほど近道である。そのためか、大正末期までは、峠に茶屋もあったという。

峠の名称	市町	概 要
引谷峠	丹波篠山市 京丹波町	丹波篠山市藤坂から京丹波町瑞穂町弓谷に通ずる県境の峠。
板坂峠	丹波篠山市 京丹波町	丹波篠山市小原から京丹波町瑞穂町小野に通ずる県境の峠。
藤坂峠	丹波篠山市	丹波篠山市藤坂から西紀町川坂へ通ずる峠。
鼓峠	丹波篠山市	西ヶ嶽、三嶽の北、丹波篠山市西紀町栗柄から同町本郷へ通ずる山道が、この鼓峠である。この峠の頂上に、その昔、鼓の形をした一枚の田があって、これより、この峠の名が付いたという。田の水が分れて、南に落ちるものは篠山川となり、加古川に注ぎ、北に落ちるものは、福知川となり由良川に注いでいる。すなわち、この地は、丹波の分水嶺であった。別名、泣別田ともいう。また、天正の昔、波田野の将、細見将監、畑牛之丞等が明智光秀を要撃して、これを破り、光秀の麿将、堀部平太夫を殺したので、光秀は僅かに身をもって逃れたという古戦場としても名高い所である。
栗柄峠	丹波篠山市 丹波市	丹波篠山市西紀町栗柄から丹波市春日町栢野に通ずる峠。
川坂峠	丹波篠山市	丹波篠山市西紀町川坂から篠山町火打岩に通ずる多紀アルプスの峠。小金岳は、アルプス的な岩登りのスリルが味わえる。
鏡峠	丹波篠山市 丹波市	丹波篠山市西紀町小坂から丹波市春日町中山へ通ずる峠。
ユレーイ峠	丹波篠山市	多紀アルプスの峠。西岳と小金岳との鞍部の峠である。ユレーイ峠という名称は、興味深い、なぜ付いたのか不明。
佐仲峠	丹波篠山市 丹波市	丹波篠山市西紀町小坂から丹波市春日町東仲へ通ずる峠。
箱部峠	丹波市 福知山市	丹波篠山市西紀町桑原から福知山市三和町菟原へ通ずる県境の峠。
瓶割峠	丹波篠山市 丹波市	丹波篠山市丹南町追入から丹波市春日町奥町へ通ずる峠。

淡 路

峠の名称	市町	概 要
ヒヤリ峠	淡路市	ヒヤリ峠は淡路巡礼の霊場の中央に位置する。常隆寺・摩耶山・東山寺を結ぶ中央の峠で淡路巡礼道で、絶好のハイキングコースになっている。淡路市津名町生穂から雨乞公園へ、昔から“雨乞い行事”を行ってきた地。雨乞公園から野田への道は花の道、山畑の道。野田尾の谷を登るとヒヤリ峠にでる。この峠は江戸時代の“机官道”の要で、当時淡路嶋の縦断の道は島の中央部、山間部を通過していた。ヒヤリ峠から、摩耶山を越えて東山寺までは約9キロ、2時間余りの道のり。
大塔峠	淡路市	淡路市津名町興隆寺から北淡町奥へ通ずる峠。
中山峠	(洲本市) 南あわじ市	淡路の国道28号線には同じ名をもつ2つの“中山峠”がある。ここは、洲本市側から入って南あわじ市緑町広田から、国道は峠にかかる。小さい峠で、頂上付近のロードサイドは賑わう。広田は淡路の酪農の中心地で生産高を誇る。中山峠を越えると三原平野が大きく広がる。国道沿いには、天然記念物の「八木の並松」が点々と残っている。

峠の名称	市町	概要
中山峠	南あわじ市	もう一つの中山峠は、南あわじ市南淡町賀集の“天王の森”からなだらかな坂を上り詰めると辿り着く峠。眼前には鳴門海峡を望む福良湾が開ける。この峠のに一つの小さな碑、ふるさと淡路を命がけて豊臣秀吉から守った桐原刑部の碑がある。中山峠を下りたところ、福良の交番の辺りが古代の道「南海道」の福良の駅家跡ではないかとされる。福良港から鳴門の渦潮観潮船が出て、その奇観を見せてくれる。また、ここ三原町三条は淡路人形芝居の発祥の地で無形民俗文化財として伝統を誇る。
阿那賀峠	南あわじ市	南あわじ市西淡町阿那賀から南淡町仁尾へ通する峠。
刈藻峠	南あわじ市	南あわじ市南淡町刈藻から 同町仁尾へ通する峠。近くに国民休暇村うずしお荘があり、有料道路うずしおラインから門崎へ通する。
地野峠	南あわじ市	南あわじ市南淡町地野の峠。海岸線沿いの道と阿万新川からの道とがこの地で合流する。洲本方面に海岸道を行くと灘黒石の水仙郷がある。

【参考資料】『日本地理大系・近畿編』改元社、国土地理院地図（兵庫県部分）、『兵庫県道路地図』昭文社、『兵庫の峠』兵庫県民サービスセンター

【URL】 <http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/dt30tog.pdf>
<http://kdskenkyu.saloon.jp/kdsdata.htm>